

宅 建 士 講 義 録	コ ー ス ・ 講 義 等	科 目	民 法 等	回 数	1
-------------	---------------------------------	--------	-------	--------	---

配 布 物	★ テ ス ト 類 : [] ★ その他の配布物 1 : [] ★ その他の配布物 2 : []	講 師	村 田 先生
-------------	---	--------	--------

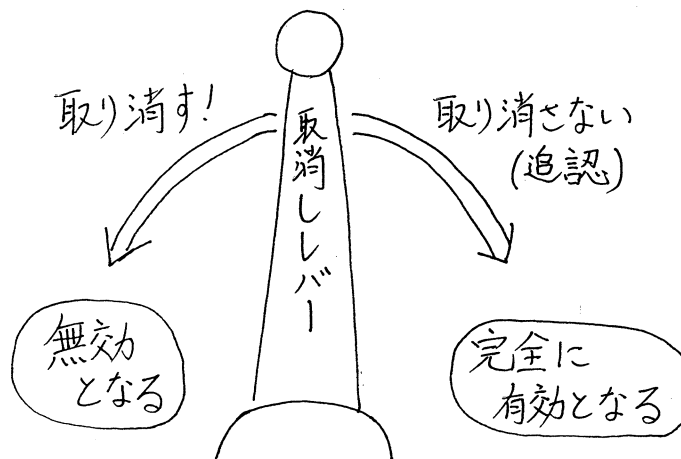
黒 板 内 容

P2

契約 = 約束

P2

<取消し>



P2

第1章 入門

～第1節 基本用語の意味～

- (2) --- 悪意 ----- 知っている(又は、知っていた)
- (5) --- 善意 { 有過失 --- 過失あって知らなかった } 軽過失
 (4) --- { 無過失 --- 過失無く知らなかった } 重過失

(6) --- 無効 ----- はじめから法律行為の効力が生じないこと

(7) --- 取消し ----- 取り消すまでは有効

取り消されてはじめて無効になる(選べる無効)

- (15) --- 対抗 { できる --- 勝てる
 { できない --- 勝てない(負ける)

P7

～第2節 契約～

1. <契約の成立>

意思表示の合致 → 口約束で成立

2. <民法における契約の原則>

契約自由の原則

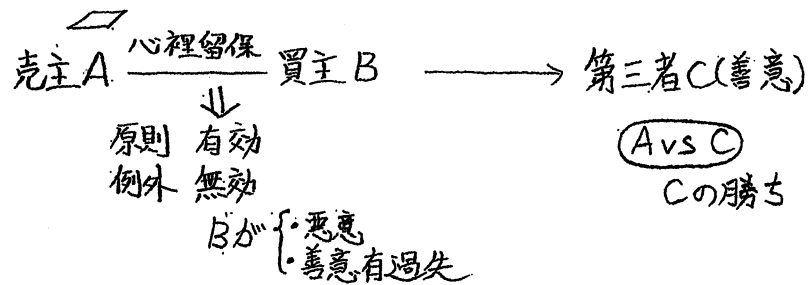
↳ 特約最優先 (原則として民法の規定よりも特約を優先適用)

P14 第2章 契約の有効要件

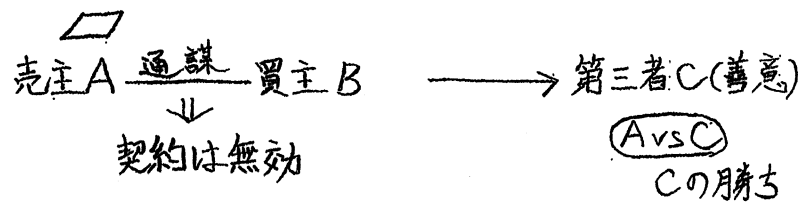
～第1節 意思表示～

1. 意思表示 {
- ① 心裡留保^{しんり}
 - ② (通謀)虚偽表示
 - ③ 錯誤
 - ④ 強迫
 - ⑤ 詐欺

P15② ①心裡留保 (冗談を言う)

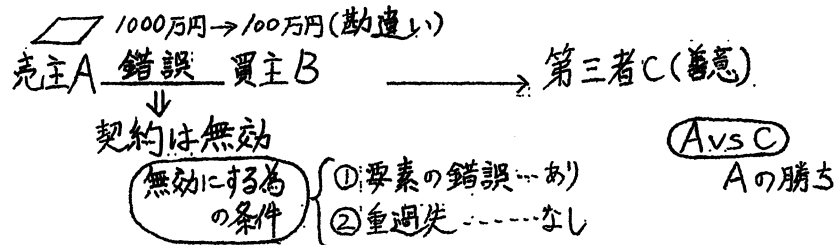


P16③ ②(通謀)虚偽表示 (架空契約)

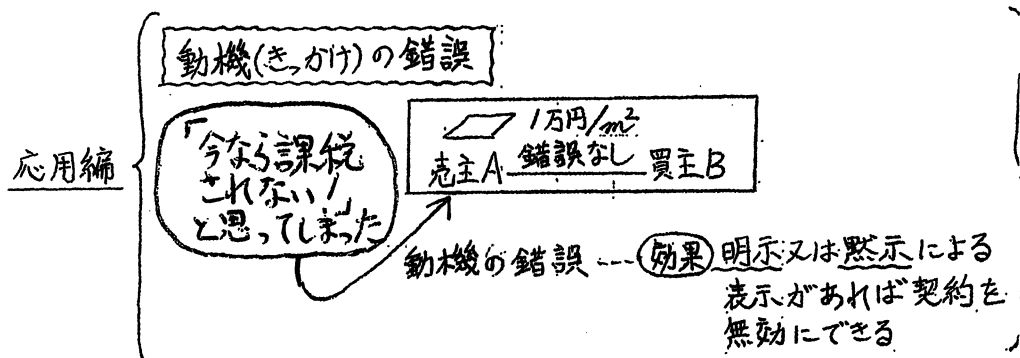


P17④

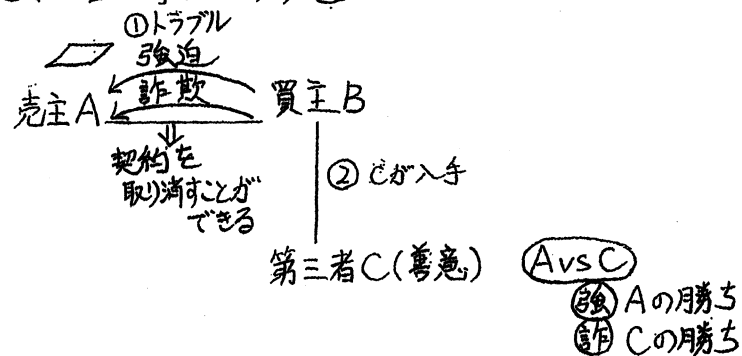
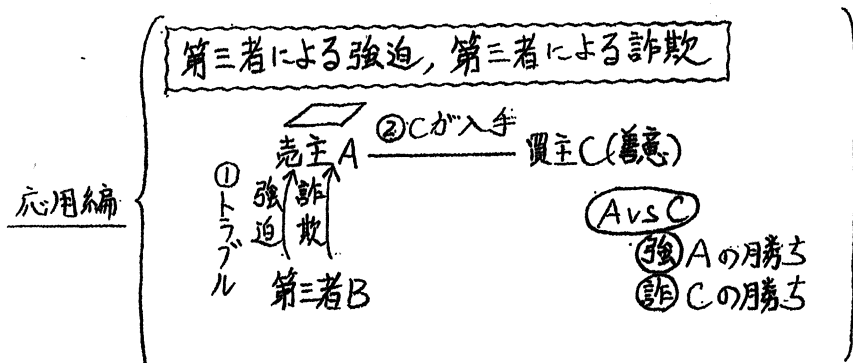
③ 錯誤(勘違い)



⇒2

P18⑤
P19⑥

④ 強迫(財産を奪し取る), ⑤ 詐欺(財産を騙し取る)

P18⇒3,
P19⇒3

(P22~) 第2節 行為能力

P23②

制限行為能力者制度

③~⑥

第1グループ (能力がかなり低い)

- 未成年者
 - 成年被後見人
- 原則 --- 取り消せる
例外 --- 取り消せない

第2グループ (能力がやや低い)

- 被保佐人
 - 被補助人
- 原則 --- 取り消せない
例外 --- 取り消せる

P32 8

(P24③4,
P25④4,
P26⑤4,
P27⑥4)

保護者の権限

	契約後		契約前	
	取消権	追認権	同意権	代理権
成年被後見人の法定代理人	○	○	×	○
未成年者の法定代理人	○	○	○	○
被保佐人の保佐人	○	○	○	△
被補助人の補助人	△	△	△	△

P24③5

(P25④5,
P26⑤5,
P27⑥5)

取り消すことができる者

